

毎日新聞社の CO₂削減への取り組み

川口裕之

私は新聞社として取り組んでいる森林減少問題改善、温室効果ガス削減に結びつく各種のキャンペーンの報告をしたいと思います。私どもの組織は昨年4月に創設しました。「水と緑の地球環境本部」という名称で、英語では「Global Environment Office」といいます。名前も活動内容も新聞社としては、特異なものであると思いますが、これまで取り組んできたキャンペーンをとりまとめて、さらに強化していこうという目的で作りました。

新聞社ですので、記事を書いて紙面で環境問題を訴えるということが主体ですが、紙面と実践を両輪にして「行動するメディア」を掲げて活動しているのが、私どもの大きな特徴です。現在取り組んでいるキャンペーンは4つあります。

その柱の一つがここにいらっしゃる宮脇昭先生にご指導をいたたぎながら実施しているMy Mai Tree キャンペーンです。My は参加者それぞれの「私」、Mai は「毎日」の「毎」です。3000万本以上を植えてこられた宮脇先生の全実績からすればごくごくわずかですが、2006年から2年間で、北海道から沖縄まで約14万本の木を植えてきました。地方自治体や神社などと共催で、一般の参加者を募って「植樹祭」の形式で1000人規模で開催しています。木を植えることの意義は、先生のお話の通りですが、私どもとしても継続していくことが大切であると考えています。

2つ目は、ノーベル平和賞を受賞したケニアの前環境副大臣、ワンガリ・マータイさんと進めている「MOTTAINAI」キャンペーンです。3年前の05年に招へいた際、私どものインタビューで「もったいない」という言葉が、自分が取り組んでいる3R（リユース、リデュース、リサイクル）の活動をひとことで言い表すことが出来ると、感銘しました。それ以来、毎年、来日して国内で植樹や講演で「MOTTAINAI」の精神を訴えています。毎日新聞社としては、募金やキャンペーン協賛企業の商品の売り上げの一部などで、毎年、約2000万円をマータイさんがケニアで取り組んでいる植樹活動・グリーンベルト運動（BGM）に寄付しています。今年も5月22日、TICAD（アフリカ開発会議）に参加するため来日します。今年も植樹や講演や小池百合子さんや板東真理子さんらとのシンポジウムも計画しています。

3つ目が富士山再生キャンペーンです。NPO富士山クラブと協力して、清掃登山に取り組み9年目になります。アルピニストの野口健さんが中心となって、日本を象徴する富士山が環境問題を映し出す鏡であるにとらえ、富士山の

清掃を実施してきました。今月19日、富士山・青木ヶ原で約1トンのごみを回収しました。3回目になりますが、エベレストと同時登山を計画しました。エベレストは事情があって延期しました。また、昨年2月には「富士山大好き！百人の会」を作り、呼びかけ人の代表には、プロ野球ソフトバンク監督の王貞治さん、歌手の加藤登紀子さんらが名を連ね、10月には「ふるさと清掃運動会」と称した全国一斉清掃を実施しました。

4つ目が、この4月から本格的に活動をはじめた「そらべあスマイルプロジェクト」です。太陽光発電の施設を全国の幼稚園・保育園に設置していく計画です。家電メーカーのソニーや環境NPOなどとともに取り組んでいます。

「そら」「べあ」というのは、「Solar」（太陽光）「Bear」（クマ）です。ホッキョククマの兄弟というキャラクターで、私ども「水と緑の地球環境本部」のシンボルキャラクターにしています。小さな子供たちや若い女性たちに人気です。地球温暖化によって北極の氷がとけて、親グマとはぐれてしまい、涙を流しながら母グマ探しに出かけるというストーリーで、絵本にもなっています。発電所の設置は、公募をして抽選で決めます。グリーン電力を使うことに止まらず、環境教育の拠点として活動を継続してほしいと願っています。

我々の活動はいずれもピンポイント、点にすぎませんが、それを線から面に広げていきたいという思いで活動を続けていきます。社内の活動としては、北海道から沖縄までの社員3200人にエコバックを配り、レジ袋を削減しようと呼びかけました。それぞれがライフスタイルを変えていき、新聞社として皆さんと協力して、森林減少を食い止め、温室効果ガス削減に向けて自治体や国を動かしていくきっかけになればと考えています。